

## 令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問調査)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問調査)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	84人	算数	84人	理科	84人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	103人	算数	103人	理科	103人
------	----	------	----	------	----	------

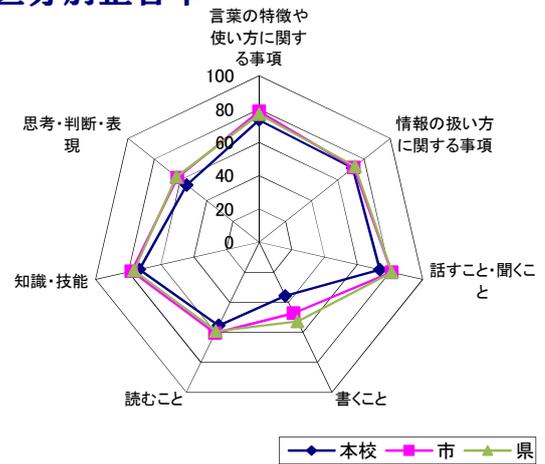
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立新田小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.4	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	71.4	72.2	73.1
	話すこと・聞くこと	73.8	81.0	81.1
	書くこと	35.7	47.2	52.8
	読むこと	55.5	60.5	59.3
観点	知識・技能	73.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	55.1	62.3	63.1



## ★指導の工夫と改善

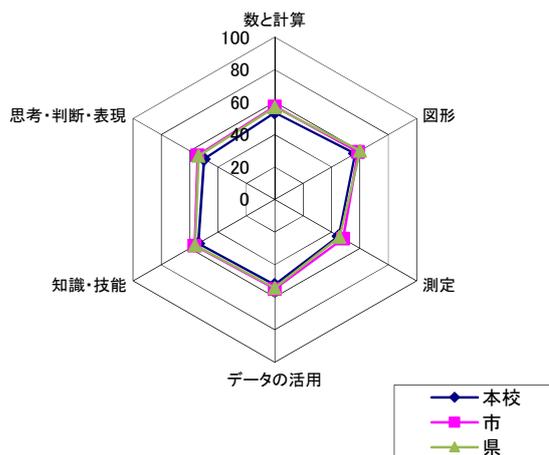
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「主語と述語の組み合わせを選ぶ」問題や「指示をする語句の役割を理解する」問題では、市の平均正答率を上回っているものもある。</li> <li>●市の平均正答率より、下回っている。</li> <li>●「漢字の読み書きについて」の問題では、市の平均正答率を下回っている。</li> <li>●「ローマ字で表記されたものを正しく読む」問題では、市の平均正答率より13.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習漢字の読み書きについては、朝の学習でミニテストやドリル等に繰り返し取り組み、定着を図る。</li> <li>・1人1台端末を利用し、タイピングの練習をさせるなど、普段からローマ字に触れる機会を増やすようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より、やや下回っている。</li> <li>●「国語辞典の使い方について」の問題では、市の平均正答率より0.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がすぐに手に取れるように、国語辞典を教室に常備して、語句の調べ方やポイントを確認する機会を増やし、辞典で調べる活動を継続していく。</li> <li>・家庭学習等で国語辞典を使った言葉の意味調べを推奨する。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より下回っている。</li> <li>●「参加者の発言をもとに、考えをまとめることができるかどうかをみる」問題では、市の平均正答率を12.6ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動を行う際に、相手の伝えたいことについて確認をさせ、お互いの考えの共通点や相違点を整理させる。また、自分の考えやその理由を発表させたり、書かせたりする。</li> <li>・ペアでの話し合いの場面で、相手の意見をよく聞き、受け止め、それに対しての質問を投げかけられるようにする。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より下回っている。</li> <li>●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる」問題では、市の平均正答率を15.4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書等の文章や模範となる書き方の例を参考にさせ、段落の構成を意識させた文章表現の仕方の習熟を図る。</li> <li>・1分間スピーチなどを行う際にノートを活用し、2段落に分けたスピーチメモを作成することで、段落構成について意識させる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる」問題では、市の平均正答率を上回っているものもある。</li> <li>●市の平均正答率より下回っている。</li> <li>●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる」問題では、市の平均正答率を11.4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の意図に沿った解答ができるように、様々な問題に触れる機会を増やす。</li> <li>・説明文を読むときには、キーワードとなる言葉や文を見つけて、要約する活動を積極的に取り入れていく。</li> <li>・様々な学習場面において、学習した内容について自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。</li> </ul>

# 宇都宮市立新田小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.6	57.4	56.9
	図形	56.6	58.7	60.1
	測定	44.9	48.1	45.7
	データの活用	52.4	54.9	54.3
観点	知識・技能	54.0	56.6	56.2
	思考・判断・表現	49.9	54.5	53.8



## ★指導の工夫と改善

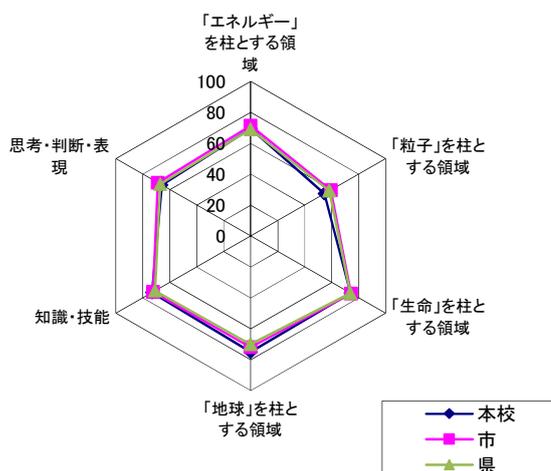
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「小数のしくみや表し方を答える」問題では、正答率が92.9%で、小数のしくみや表し方について概ね理解している。</p> <p>●市の平均正答率より、下回っている。</p> <p>●「余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する」問題では、市の平均正答率を10.7ポイント下回り、無解答率は41.7%で半分近くの児童が解答していない。</p> <p>●「言葉で説明する」問題では、他の問いに比べて無解答率が高くなることから、考え方を説明すること、表現することに課題が見られる。</p>	<p>・基礎的な計算の定着の維持、向上のため、朝の学習や授業の始め・終わりに練習問題に繰り返し取り組む時間を設定する。</p> <p>・自身の考えを深めたり広げたりできるように、授業で話し合い活動の場を設けるとともに、友達の考えを自分の考えと比較したり、友達の考えを説明したりする活動を設定する。</p> <p>・説明するために必要な言葉や話型を提示し、文にする練習をペアやグループ活動することにより、説明することに慣れるようにする。</p>
図形	<p>○「正三角形を作図する」問題では、正答率が79.8%で、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●市の平均正答率より、下回っている。</p> <p>●「二等辺三角形になる点を選ぶ」問題では、正答率が32.1%で、市の平均正答率を1.0ポイント下回っている。無解答率は16.7%で、市の無解答率を上回っている。</p>	<p>・作図の技能を定着させるため、正しい作図の仕方を演習を通して繰り返し練習する。1人1台端末の動画などを活用し、個に応じた学習が進められるようにする。</p> <p>・様々な三角形の性質を理解させるために、図と言葉を結び付けて考えられるよう、図形の定義の中からキーワードを見つけさせるなど、知識を言語化できるような指導方法を工夫する。</p>
測定	<p>○「時間が経過する前の時刻を求める」問題では、正答率が58.3%で、市の平均を上回った。</p> <p>●平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>●「重さを、基準量のいくつ分かで考え、説明する」問題では、正答率が39.3%で、市の平均正答率を7.4ポイント下回っている。</p>	<p>・時計やものさしなどの具体物を利用して考える活動を取り入れてきた成果が出ていると考えられるので、今後も継続し、知識の定着、活用力の向上を図る。</p> <p>・「割合」の内容理解を深めるために、「基準量」や「比較量」などの用語の意味を確認したり、考え方についてペアで伝え合う活動を取り入れたりする。</p>
データの活用	<p>○「二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ」問題では、正答率は63.1%で、市の平均正答率を3.0ポイント上回った。</p> <p>●市の平均正答率より、下回っている。</p> <p>●「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ」問題では、正答率は35.7%で、市の平均正答率を7.7ポイント下回っている。</p>	<p>・グラフが表す数値や意味を正しく理解する力を養うために、グラフの特徴やグラフから分かることについて考え、話し合う活動を意図的に設定する。</p> <p>・表やグラフから情報を読み取り、正しく分析する力を育てていくため、算数だけでなく社会科の学習でも、表やグラフを読み取る学習を取り入れるなど、指導方法を工夫する。</p>

# 宇都宮市立新田小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	54.8	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.0	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	75.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	66.0	68.8	67.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「電気の通里道の名称を答える」問題では、市の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ●「風の強さとものを動かすはたらき」の問題では、市の平均正答率を12.5ポイント下回っている。	・実験や観察のポイントを明確にして、理解を深めさせる。 ・実験結果を、言葉、絵、図、表など自分なりの表現でまとめさせることで、知識を定着できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「はかりを正しく用いて重さを調べる」問題では、市の平均正答率と同程度であった。 ●「予想を基に実験結果を構想できるかを問う」問題では、市の平均正答率を10.3ポイント下回っている。	・実験で見つけたことを基に考察を書かせたり、学んだ言葉を使ってふりかえりをしたりする場を設けることで、理解を深められるように指導する。
「生命」を柱とする領域	○「昆虫のからだのつくりについて問う」問題では、市の平均正答率を5.7ポイント上回っている。 ●「昆虫の育ち方の違いを問う」問題では、市の平均正答率を8.3ポイント下回っている。	・観察結果や考察について、映像資料を活用したり、ノートを活用したりしながら分かりやすくまとめられるよう指導する。
「地球」を柱とする領域	○「温度計の使い方」を問う問題では、市の平均正答率を10.3ポイント上回っている。 ●「方位磁針の正しい使い方」を問う問題では、市の平均正答率を1.4ポイント下回っている。	・AIDリルを使って既習事項や用語を確認する機会を設け、知識を定着できるように指導する。 ・観察、実験後の振り返りやグループでの話し合いを通じて、知識の確認と定着を図る時間を確保する。

## 宇都宮市立新田小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか」という設問の肯定的回答率は27.7%で県の肯定的回答率を6.2ポイント上回っている。朝の読書の時間や図書室利用を活用したことで、多くの児童が本に親しむことができた。今後も、さまざまなジャンルの本に触れる機会を増やしていきたい。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という設問の肯定的回答率は78.3%で、学習の大切さについて理解していると考えられる。今後はキャリア教育を兼ねて、各教科の学習内容が将来の夢につながっていくことを伝え、児童の学習に対する意欲付けを行っていききたい。

○「自分にはよいところがあると思う」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」、「しょう来のゆめや目標をもっている」という設問の肯定的回答率は、すべてにおいて県の平均を上回っている。今後も学級で係活動や当番活動を積極的に取り入れることで、児童の自己肯定感や成長志向を高めていく。

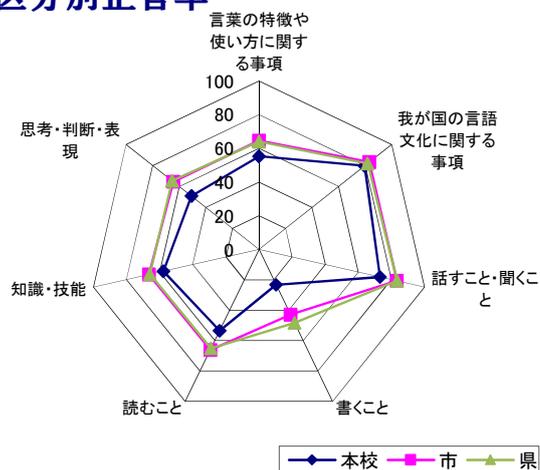
●「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」という設問の肯定的回答率は20.5%で、県の肯定回答率を11.2ポイント下回っている。家に帰ってから就寝するまでの時間の使い方がまちまちであることがわかる。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という設問の肯定的回答率も、県の肯定回答率を3.5ポイント低いことから家庭学習に関しては、自主的に計画を立てて学習することが十分とはいえない児童がいる。なるべく同じ時こくに学習に取り組むことができるよう、継続的に支援・指導し、家庭における学習のリズムを整えていきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という設問の肯定的回答率は36.1%で、県の平均を8.3ポイント下回っており、振り返りの時間が不十分であったことがわかる。授業の中で、学んだことを振り返る時間や、それらを発表する場を設けていきたい。

# 宇都宮市立新田小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.3	64.7	64.1
	我が国の言語文化に関する事項	79.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	73.1	83.3	83.4
	書くこと	23.3	42.8	48.2
	読むこと	53.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	57.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	50.9	64.6	65.5



## ★指導の工夫と改善

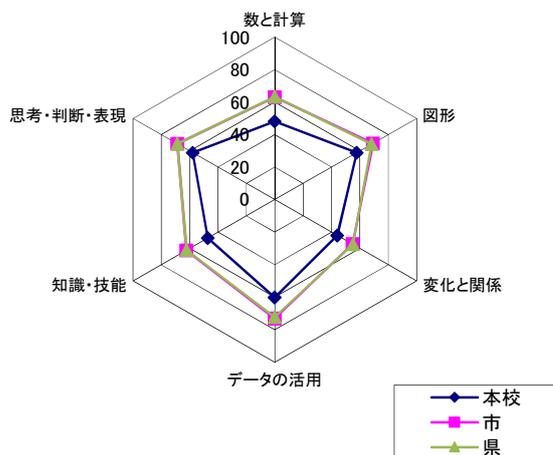
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を読むことができる。 ●市の平均正答率より、9ポイント下回っている。 ●漢字を書くことに課題がある。特に、送り仮名の誤りが多く見られた。 ●修飾語や熟語など、文法的なことに課題がある。	・漢字テストを継続して実施し、習熟を図る。 ・修飾語や熟語に関連した課題を出したり、授業で扱う物語や説明文の中で話題に出したりするなど、言葉や文法に触れる機会を設定する。
話すこと・聞くこと	○話を聞いて内容の概要を大まかに理解することができる。 ●市の平均正答率より、10ポイント下回っている。 ●話し合いの発言内容を自分なりにまとめることに課題がある。	・話し手の伝えたいことを考えながら聞くことについて、継続して指導する。 ・聞いた話の内容を理解するだけでなく、自分の言葉で表現させる活動を取り入れて、自分なりにまとめることの習熟を図る。
書くこと	●市の平均正答率より、19ポイント下回っている。 ●条件に合わせて文章を書くことに課題がある。「書くこと」に関連する問題の全てにおいて、無回答率が4割を超えている。	・内容についてあらかじめ友達と話し合ってから書き始めるなど、安心感をもって活動に取り組めるようにする。 ・行数や段落、書く内容などの条件を指定して、決められた時間内に書くという活動を取り入れて、条件に合わせて書くことの習熟を図る。
読むこと	○物語文で、登場人物の気持ちの変化について具体的に想像することができる。 ●市の平均正答率より、12ポイント下回っている。 ●説明文で、文章に書かれていることを正確に捉えたり、要約したりすることに課題がある。	・キーワードになる語や文に線を引くなど、言葉を意識して読むことを指導し、記述された文章の中から根拠を見つけられるようにする。

# 宇都宮市立新田小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.2	63.0	63.3
	図形	57.8	69.2	68.3
	変化と関係	44.0	54.8	55.0
	データの活用	60.2	73.1	72.3
観点	知識・技能	47.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	57.9	68.7	68.7



## ★指導の工夫と改善

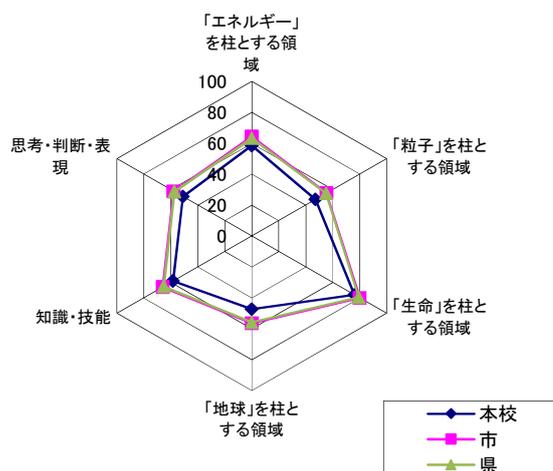
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「式の意味を正しくとらえ、言葉で説明することができるかどうかをみる」問題では、正答率が8割を超えている。</p> <p>●「数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表すことができるかどうかをみる」問題では、正答率が17.5%で、市の平均正答率よりも31.1ポイント下回っている。</p>	<p>・児童が今後も式の意味を正しく捉えることができるよう、立式した際に、その数は何を表しているのか児童に説明させるような場を意図的に設けていく。</p> <p>・かけ算わり算の定着を図るために、繰り返し問題を解かせる。</p> <p>・児童が分数の意味や仮分数などの用語について理解できるように、数直線を活用するなど、視覚的に捉えやすくしながら繰り返し指導を行い、基礎・基本の定着を図る。</p>
図形	<p>○「立体の構成要素から、立体を見分けることができるかをみる」問題では、正答率が市の平均よりは低いものの、7割を超え、無回答率が低かった。</p> <p>●「ものの位置の表し方を理解し、もとにする位置を考慮することができるかをみる」問題では、正答率が50.5%で、市の平均正答率よりも14.9ポイント下回っている。</p>	<p>・図形の特徴や性質に関する基礎的な知識の定着が図れるよう、実物を操作しながら繰り返し指導を行う。</p> <p>・日常生活の中にある様々な図形を見つける活動を取り入れることで、児童が意欲的に図形学習に取り組めるようにする。</p> <p>・文章から必要な情報を読み取ることができるように、文章問題のキーワードとなる言葉に印をつける習慣をつける。</p>
変化と関係	<p>○「表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係性を式に表すことができるかどうかをみる」問題では、正答率が市の平均よりは低いものの、7割近くあり、無回答率が低かった。</p> <p>●「割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかどうかをみる」問題では、正答率が24.3%で、市の平均正答率よりも17.5ポイント下回っている。</p>	<p>・児童が表やグラフから多面的・多角的に情報を読み取ることができるように、教師が範を示し、説明させるような場を意図的に設ける。</p> <p>・円滑に話し合いができるように、説明の型を提示し、説明しやすい環境づくりに努める。</p> <p>・児童が割合のしくみを正しく理解し、割合を使った比べ方について自分の言葉で説明できるよう繰り返し丁寧に指導する。</p>
データの活用	<p>○「二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる」問題では、無解答率が15.5%と多し中、正答率が7割近くある。</p> <p>●「折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方を読み取ることができるかどうかをみる」問題では、正答率が50.5%で、市の平均正答率よりも21.3ポイント下回っている。</p>	<p>・折れ線グラフの指導では、理科など他教科との横断的な指導を行い、グラフを正しく読み取れるよう繰り返し指導する。</p> <p>・無解答を減らすために、基本問題に取り組んだり、説明を穴埋めで書かせたりと記述式の問題に繰り返し取り組ませる。</p>

# 宇都宮市立新田小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	58.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	47.2	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	76.1	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	47.3	56.4	55.8
観点	知識・技能	58.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	51.2	57.9	57.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より、下回っている。</li> <li>●「乾電池のつなぎ方の名称を問う」問題では、市の平均正答率を3.2ポイント下回っている。</li> <li>●「図で示された回路から電流が流れない原因の箇所を問う」問題では、市の平均正答率を7.4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も実験を多く取り入れて体験的に理解できる学習を多く取り入れていく。</li> <li>・実験の際に、予想を立てる→取り組む→結果をまとめる→考察するというサイクルを意識して行うようにする。</li> <li>・単元の導入を工夫して教材への興味・関心を高めるようにする。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より、下回っている。</li> <li>●「実験結果から分かる水の温まり方を適切にまとめた考察を選ぶ」問題では、市の平均正答率を3.1ポイント下回っている。</li> <li>●「温められた空気の動き方を問う」問題では、市の平均正答率を18.2ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や体験活動に加えて、根拠に基づいて考える学習を取り入れる。</li> <li>・実験結果などを生活に結びつけることで生活の中の事象に注目をさせたり、興味・関心を引き出したりする。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より、下回っている。</li> <li>○「大カマキリとトノサマガエルの越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ」問題では、市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。</li> <li>●「夏に記録されたサクラのようすを示した図を選ぶ」問題では、市の平均正答率を6.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期に渡って継続して観察するものに苦手が見られるので、観察対象と観察の視点を明確にし継続的に取り組ませるなどして丁寧に扱っていきたい。</li> <li>・結果を累積し、全体についての考察を考えさせる。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均正答率より、下回っている。</li> <li>●「実験結果から水がしみこみやすい粒の特徴を答える」問題では、市の平均正答率を3.9ポイントを下回っている。</li> <li>●「窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章に当てはまる語句を選ぶ」問題では、市の平均正答率を15.9ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な出来事と関連付けて理解できるよう指導する。</li> <li>・観察する前に必要な知識を教え、どこを見るかポイントをしっかりと確認する。</li> </ul>

## 宇都宮市立新田小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を3ポイント上回った。
- 「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を7ポイント上回った。
- 「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を8ポイント下回った。また、「国語の学習は好きですか。」の質問は8ポイント、「算数の学習は好きですか。」の質問は6ポイント、それぞれ県全体の割合を下回っており、学習に対する意欲に課題が見られる。
- ・短時間で気軽に取り組める課題を準備したり、自分の考えを伝える機会を意図的に設定したりして、分かる楽しさを感じられるようにすることを通して、学習への意欲を高めたい。
- 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を9ポイント下回った。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である。」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を14ポイント下回っており、進んで発言することに課題が見られる。
- ・日直当番など、話すことが決まっている場面では、ほとんどの児童が発言することができている。一方で、学習の場面で自分の考えに自信がもてない様子が見られるため、発言の前にどんなことを話せばよいか考えたり、相談したりする時間を確保して、自信をもって発言できる経験を積み重ねていきたい。
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を9ポイント下回った。また、「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」の質問に「はい」と回答した割合は、県全体の割合を10ポイント下回っており、国語や算数の授業の中で、内容を理解したり自分の考えを表現したりすることに課題が見られる。
- ・自分の考えを伝える活動の中で、考えた根拠や理由を説明したり、学習したことを生かして、問題作りに取り組んだりする活動を取り入れることを通して、思考力や表現力を高めたい。

## 宇都宮市立新田小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の確実な習得のための指導の工夫</li> <li>・単元を通しての学習の流れの提示</li> <li>・導入や教材との出会いの工夫</li> <li>・目標（「何をするか」）の明確化</li> <li>・活動や学びの振り返り（「何ができたようになったか」）の明確化</li> </ul>	4年生は、4教科（国語、算数、理科、社会）において、「授業の内容はよくわかるか」の質問に対して「よくわかる」と回答した児童の割合は県の平均を上回っている。一方で、5年生は全ての教科において県の平均を下回っている。
思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考える視点・書く視点の提示</li> <li>・振り返りの充実・視点の提示</li> <li>・発問の精選</li> <li>・問い返しや補助発問の工夫</li> <li>・授業を通しての書く活動の設定</li> <li>・一人学びの時間の確保と教師の支援</li> <li>・ノート・ワークシートの工夫</li> <li>・キーワード、イメージ図の活用</li> </ul>	4年生は、「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」の質問に対して「書いている」と回答した児童の割合が県の平均を下回っているが、5年生は上回っている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に対して「行っている」と回答した児童の割合は、4年生、5年生ともに県の平均を下回った。
学び合いの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のコーディネート</li> <li>・一人一台端末の活用</li> <li>・話し合いを深めるツールの開発と活用</li> <li>・話し合いの目的・視点の明確化</li> <li>・学習形態の工夫（ペア学習・グループ学習）</li> </ul>	いずれの学年も「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対して「よくできている」と回答した児童の割合が県の平均と同程度であった。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
振り返りの活動に関して、肯定的回答が県の平均を下回っていたことから、児童が自分の考えを表出し、次の学習へとつなげる意識が低いことが課題として考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの充実</li> <li>・単元を見通した授業の計画立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表現する活動を取り入れる授業の実践</li> <li>・振り返りの活動時に、次時の内容を取り上げ、学びの連続性を意識させる授業の展開</li> </ul>